

進めようがんになっても安心な街づくりシンポジウム 実施概要

日 時 : 平成 22 年 10 月 23 日 (土) 13:30~16:00
場 所 : 名古屋市立大学病院中央診療棟 3F ホール
主 催 : 進めようがんになっても安心な街づくりシンポジウム実行委員会
協 働 : 日本医療政策機構 がん政策情報センター「地域発:がん対策市民協働プログラム」
後 援 : 愛知県・名古屋市・中日新聞社・愛知県医師会・名古屋市医師会
愛知県病院協会・愛知県医療法人協会
参加者数 : 302 人

■プログラム

13:30 開会挨拶

- ①がん診断時からのピアサポートプロジェクト 実行委員長 花井美紀 (NPO法人ミーネット理事長)
- ②プロジェクト紹介 同・実行副委員長 大野裕美 (名古屋市立大学大学院 人間文化研究科)

13:35 基調講演 1. 愛知のがん対策、今までとこれから

日本医療政策機構 がん政策情報センター長 埴岡健一氏

14:05 基調講演 2. 名古屋市が進める「がんになっても安心」な街づくり

名古屋市病院局長 名古屋市立大学大学院医学研究科特任教授 上田龍三氏

14:25 がんとの「共存から克服へ」愛知からの発信

愛知県がんセンター研究所 所長 田島和雄氏

15:00 パネルディスカッション〜がん患者さんの安心のために、いま進めること

名古屋市立大学病院 緩和ケア部 部長 明智龍男氏

中日新聞社 編集委員 安藤明夫氏

名古屋市立大学病院 化学療法部 部長 小松弘和氏

名古屋医療センター・主任 医療社会事業専門職 山田悦子氏

*会場からの質疑応答あり

16:00 セミナー終了



日本医療政策機構 がん政策情報センター
「地域発:がん対策市民協働プログラム」協働事業

シンポジウム
進めようがんになっても安心な街づくり

2010年 10月23日 13:30~16:00

主催:がんになっても安心な街づくり実行委員会
(がん診断時からのピアサポート・プロジェクト、NPO法人ミーネット、
東海がんプロフェッショナル養成プラン)

■ 概 略

シンポジウム「進めよう がんになっても安心な街づくり」は、数多くのがん患者・家族、市民に加え、行政、医療関係者、企業からも参加があった。愛知県会議員も2名、名古屋市議員は14名が参加し、専門家の熱意溢れる講演と、活発なパネルディスカッションに聞き入った。アンケートでは「市民と議員で名古屋市独自のがん条例を」という声が多く寄せられた。結びには、闘病中のがん患者さんや家族に、上田病院局長、田島愛知県がんセンター所長からエールが贈られ、盛会裡に終了した。



←■総合司会：花井美紀 がん診断時からのビジュアル・ポズィット 実行委員長
NPO 法人ミネット理事長 名古屋市がん相談情報センター所長

→■大野裕美 がん診断時からのビジュアル・ポズィット紹介（がん診断時からのビジュアル・ポズィット実行副委員長、名古屋市立大学大学院 人間文化研究科 人間社会系専攻）



■**基調講演1. 埴岡健一氏（日本医療政策機構がん情報センター長）**
「愛知のがん対策、今までとこれから」と題して都道府県別のがんの実態・医療機関の機能・がん対策など格差を分析。「名古屋市のがん対策を総合的・計画的に推進するため、行政・医療機関・市民が一体となり、市議員による議員立法で、がん対策推進基本条例を」という画期的な提案がなされた。



■**基調講演2. 上田龍三氏（名古屋市病院局長）**
「名古屋市が進める“がんになっても安心”な街づくり」と題して、日本のがん医療の現状やがん対策、また、名古屋市のがん対策の実情について名古屋市の取り組みを報告。名古屋市の目指すがん対策を「がんを知り、がんと向き合い、がんに負けることのない街、名古屋」とワンフレーズに集約した。



■**基調講演3. 田島和雄氏（愛知県がんセンター 研究所所長）**
「安心の最前線～がん予防のムーブメントを愛知から」と題して、最新のがん研究とがん予防への提言が行なわれた。がん予防には禁煙・食事のバランス・適度な運動が大切であり、毎月22日は、スワン・スワンで禁煙日とし、毎週月曜日は、ノーマンデー（飲まんで～）で休肝日にと提案した。



■**パネルディスカッション「患者さんの安心のためにいま進めること」**
基調講演の埴岡健一氏のコーディネートにより、自分のがんを知ること、心の不安や悩みへの支援の大切さ、チーム医療の促進とピアサポートの必要性、医療機関の患者支援の取組み、メディアの役割などについて話し合った。地域が一体となつての、安心のがん患者支援体制を築くには、患者・家族をはじめとして様々な立場の連携協力と体制作りが重要であることが討議された。



名古屋市立大学病院
化学療法部 部長
小松弘和氏



名古屋市立大学病院
緩和ケア部 部長
明智龍男氏



名古屋医療センター・主任
医療社会事業専門職
山田悦子氏



中日新聞社 編集委員
安藤明夫氏

■ アンケートから

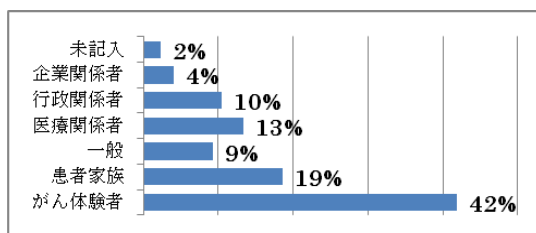
1. 参加者性別

男性	45%
女性	53%
未記入	2%

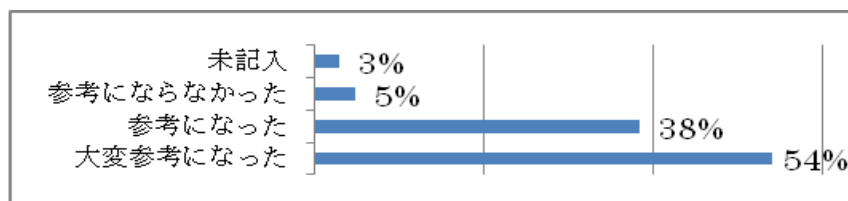
2. 年代

20代	3%	60代	27%
30代	5%	70代	23%
40代	15%	未記入	3%
50代	24%		

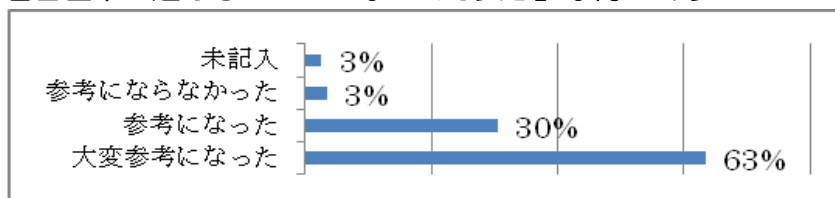
3. 属性



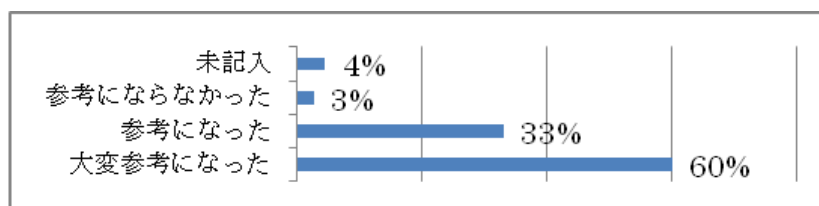
基調講演1 愛知のがん対策、今までとこれから



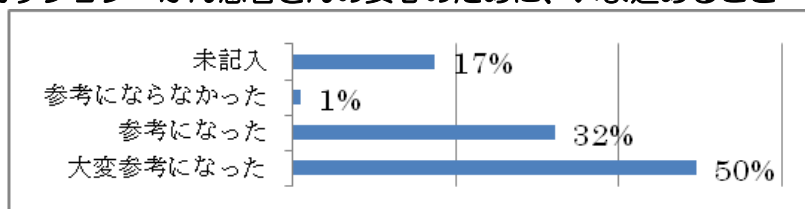
基調講演2 名古屋市が進める「がんになっても安心」な街づくり



基調講演3 がんとの「共存から克服へ」愛知からの発信



パネルディスカッション：がん患者さんの安心のために、いま進めること



■アンケート自由記述 *特に参考になった点や感想

①県・市のがん対策に関して

- ・愛知県、名古屋市のがん治療は最高水準だと思っていた。自信を持って最高、最善と言えるように頑張ってもらいたい。
- ・愛知県のがん対策予算の低さを非常に残念に思う。
- ・検診の普及、充実を望む
- ・がんになっても安心な街づくり・・・頼もしい限り。ぜひ仲間に入れて欲しい。
- ・ピアネットは全国に誇れる名古屋市独自のがん対策と思う。
- ・名古屋市独自の「がん対策推進議員連盟」を組織し、市民・NPO・医療機関、行政を巻き込んだ「がん条例の制定」など画期的な提案があり、ぜひ進めてほしいと思った。
- ・がんと街づくりという結びつきがわからないまま参加したが、本当に勉強になった。がんという病気と向き合うには多くの人たちが有機的に動かなければうまくいかない。ぜひ条例を制定していただき、がん対策先進地を目指してほしい。
- ・議員が多く出席していて驚いた。とてもいいことだと思う。議員の意見も聞いてみたかった。

②シンポジウム全般への感想

- ・このようなテーマで、患者さんの立場の方々が多く参加されていることに驚いた（医療関係者）
- ・今後も継続的にこのような会合を開いてほしい
- ・司会や運営もすばらしく温かい会であった。
- ・講師が多く、情報量は豊かで良かったが、少なくとも掘り下げた話も聞きたい。
- ・時間が延びた。身体の弱ったがん患者も参加しているので時間管理に配慮してほしい
- ・患者家族として身の引き締まる思いで聞いた。1日でも早くよりよい治療法ができることを望む。
- ・本当にいいシンポジウムだった。真剣な中でも温かいムードがあった。市民と議員が共に名古屋のがん対策に取り組んでほしい
- ・「がんになっても安心な街づくり」というタイトルが素晴らしい。

③講演やパネルディスカッションについて

- ・名古屋市の病院局長さんのお話には情熱を感じ、あのような方が医療行政の中心にいるということを知り市民としてうれしく思った。
- ・がんがいかに身近な病気であるのか本当にわかりやすく、しかもわれわれ市民が主体的に取り組まなければいけない問題であることが良くわかった。
- ・自分のがんを正確に知ることの大切さを改めて感じた
- ・田島先生の講義で、予防の大切さを再認識した。ユーマアがあって素晴らしいお話だった。
- ・小松先生の「がんを知る」という話が良かった。1人の患者のために多くの専門職が真剣に関わっていることを知った。
- ・明智先生の話で「サイコオンコロジー」を初めて知った。がん患者は、死を考えざるを得ない。悩みは多種多様にわたるが医療の限界を超えてしまっている。精神的な苦痛を取り除くためのサポート体制を形成することが、今後の課題。
- ・国立病院が患者サロンをつくったり、ピアサポーターを受け入れていることに開かれた印象を持った。
- ・色々な立場の方が一所懸命やってくれていることを知った。自分も頑張りたい。

④市民活動やピアサポートについて

- ・ミーネットのような市民活動が行政や医療機関と連携していることは素晴らしいこと
- ・ピアサポートの役割を知ることができた。支えあうのは大切なことだ。
- ・病院の中にピアサポーターに入ってもらうことも必要。
- ・がん体験は本当につらい。そのつらい体験をピアサポーターとして生かせることで、無駄な体験ではなくなる。

がんになっても安心な街づくりシンポジウム実行委員会事務局
(NPO 法人ミーネット内)

〒4660032 名古屋市昭和区天神町 3-6-5C
TEL 052-851-7113 FAX 052-851-7114